

土壌中からのショウガ根茎腐敗病菌を 検出するための捕捉培養法の改良

矢野和孝・岡田知之*・森田泰彰

Improvement of Baiting Culture Method for Detection of *Pythium myriotylum* Causing Root Rot of Ginger from Soil

Kazutaka YANO, Tomoyuki OKADA* and Yasuaki MORITA

要 約

トウモロコシ粒などのベイトで捕捉した病原菌を *Pythium* 選択培地上で検出する捕捉培養法によって、土壌中のショウガ根茎腐敗病菌を検出できるが、発病圃場であるにも関わらず検出できない場合が見られたので、検出率の向上を目指して捕捉培養法の改良に取り組んだ。捕捉時の培養温度について 25, 30, 35℃で検討したところ、30℃で最も捕捉率が高かった。捕捉期間は、2～5日間では長いほど検出率が向上したが、7日間では低下した。汚染土壌を 1/2～1/50 に滅菌土壌で希釈して全量を 500g とし、その 50g を用いて検出すると、希釈率が高まるほど検出できない場合が増加したが、全量を用いると希釈率が高くても捕捉できた。調査土壌を増加させると病原菌からベイトまでの距離が長くなる場合があるが、水平距離 20cm、深さ 10cm で捕捉できた。これまで 1kg 前後の土壌を採集し、その 50g を検出に用いていたが、約 5kg を採集して全量を用いると、検出できていなかった圃場からも検出できるようになった。

キーワード：ショウガ，根茎腐敗病，*Pythium myriotylum*，捕捉培養法